

特 認 校 の し お り



I 小規模特認校制度

1 小規模特認校の趣旨と目的

本市の辺縁部に位置し、自然環境に恵まれた小規模の学校で、心身の健康増進を図り、体力づくりを目指すとともに、自然に触れる中で、豊かな人間性を培いたいという保護者の希望のある場合に、一定の条件のもと、これを認めるものです。

2 特認入学の考え方

一般的に児童・生徒の学校指定は、教育委員会が定めた通学区域により、地域の学校を指定します。ただし、この特認入学は、保護者が小規模特認校制度の趣旨と目的に従い、真に小規模校の有する特色の中で、児童・生徒に教育を受けさせたいという場合に限り、就学すべき学校を変更するものであり、保護者の希望のみで認めるものではありません。

したがって、保護者が小規模特認校に児童・生徒の特認入学を希望する場合は、通学状況や生活指導面など入学の条件について考慮のうえ、入学を認めるものです。

なお、義務教育学校を除き、小規模特認校に入学した場合でも、原則、住所地の通学区域の中学校へ進学することになります。

3 対象となる学校と定員

児童・生徒数の現状、学校を取り巻く四季の自然環境や交通事情などの地理的状況を考慮し、次の4校を対象とします。

学校名	所在地	学年定員	電話
盤溪小学校	札幌市中央区盤溪226-4	20人	642-3223
有明小学校	札幌市清田区有明141-2	18人	881-2949
駒岡小学校	札幌市南区真駒内143-2	20人	584-6533
義務教育学校福移学園	札幌市東区中沼町240	20人	791-4212

II 入学の条件

1 保護者の申請

特認入学を希望する場合、入学が適当かどうか、制度の趣旨に沿ったものであるかどうかを面談のうえ判断しますので、保護者は必ず児童・生徒を同伴し、希望先の学校に入学申込みをしてください。その後、下記書類の提出が必要になります。

・教育委員会への「指定変更願」の申請書（学校に配備しています。）

2 通学上の条件

自宅から学校までの片道の通学時間は、小学校低学年（1～3学年）はおおむね40分、高学年（4～6学年）はおおむね60分以内とします。また、中学生については、通学可能な範囲です。

(1) 通学時間は、バス・地下鉄などの公共の交通機関を利用して通学する場合の所要時間及び徒歩による乗り継ぎに要する時間を含みます。また、通勤・通学のラッシュ時、積雪寒冷期に要する時間も含みます。

- (2) 児童・生徒は、年間を通じて継続的に通学することが必要です。
- (3) 保護者の送り迎えは、原則として禁止します。

3 保護者の協力

児童・生徒が正規の通学区域を越えて通学することから、登下校時における安全の確保・生活指導などに対する配慮が特に必要です。したがって、保護者はこれらを正しく理解するとともに、学校の指導体制について協力が必要となります。

4 短期間の転入学及び生活指導上の条件

特認入学の期間は1年以上の通年通学の場合に限るものとし、夏季間又は冬季間など、一定の期間に限定した短期間の転入学は認めません。また、保護者から児童・生徒が離れ、同一生計を維持していない、単独での転入は認められません。

5 特認入学の取消

特認入学を許可した後において、申請の事実と異なり、又は特認入学の趣旨・目的に沿わない事由が生じ、支障があると認められるときは、特認入学を取り消すことがあります。

Ⅲ 応募要領

1 募集期間

毎年1月中旬（1月10日～1月20日ごろ）に入学申込みを受け付けています。具体的な日程は、「広報さっぽろ（8月号）」でお知らせします。なお、年度途中での転入学も認めていますので、お問い合わせください。

2 申込み先

希望する特認校へ電話連絡のうえ、児童・生徒同伴による見学後、お申込みください。

〈入学決定の配慮事項〉

入学希望者が定員を超えた場合は、公開抽選とします。ただし、兄弟姉妹関係を考慮して決定します。

〈見学〉

希望する特認校に電話連絡し、見学の日程などをご相談ください。

〈問合せ先〉

各特認校

※各特認校では、ホームページで各校の特色などを紹介しています。

〈ホームページ〉

・盤溪小学校



・有明小学校



・駒岡小学校



・義務教育学校福移学園





盤溪小学校

〈通学のようす〉

「低学年の通学時間はおおむね40分以内」という特認校の通学上の条件から、ほとんどの児童が徒歩とばんけいバス(円山線・発寒南線)の路線を利用して通学しています。

本校に通学する児童は、円山ターミナル7時45分、発寒南ターミナル7時40分発のばんけいバスで登校します。

下校時は14時バス(5時間授業)、15時バス(6時間授業)で下校します。

「バス乗車時は話をしない」「一般のお客さんを優先」「降車時のお礼の言葉」等、バスマナーを守ることの大切さを指導しています。

〈盤溪小学校の特色ある教育〉

盤溪小学校は中央区の西側、三菱山(標高482m)と西高山(標高340m)に囲まれた標高200mの山間に位置しています。学校の前には盤溪川が流れ、「さっぽろばんけいスキー場」が目の前にあります。

本校では、特認校制度の趣旨と目的に合わせ、年間の教育課程に位置付けた **体力づくり** と **豊かな人間性を育てるどんぐり活動** に重点をおき、自己肯定感を高めることで、一人一人の自立を促す特色ある教育を進めています。

○縦割りのどんぐり学級で、年間行事や日常的な活動の多くが行われます。

他学年との交流機会が多く、全校児童の仲の良さを誇れる小学校です。

○体力づくり、スキー技能の向上、毎日の学習にも前向きに取り組む児童が多い小学校です。

○丁寧な言葉遣い、明るい挨拶、礼儀正しさを育てることを大切にしている小学校です。

○自然の中に校舎が建っており、四季の移り変わりを感じながら1年間を過ごせる小学校です。



盤溪川での学習

1 楽しい体力づくり・頑張る体力づくり

盤溪小学校は、児童が「生涯スポーツに意欲的な大人」に育つことを願い、低学年には「楽しい体力づくり」を、高学年には「課題に向かって頑張る体力づくり」を目指した取組を行っています。

本校では年間を通した「どんぐりトレーニング、マラソン・ドッジボール・サッカー練習、スキーの取組など」を習慣化することで、児童の基礎的な体力や運動能力を着実に伸ばしています。入学時の新体力テストでは全国平均とほぼ同じ体力分布だった1年生も、高学年では上位レベルの体力分布へと全体が向上しています。

スキーについてはルールやマナーを守り、自己目標に向けて練習することで自信をもって滑れる技能の習得を目標としています。年間約10回のスキー学習の他に、放課後には学校から子ども同士でスキー場に滑りに行くレイルスキーができます。スキー技術の上達に意欲的な児童も大変多いです。



どんぐりトレーニング



マラソン練習



ボルダリング



スキー学習・レイルスキー



有明小学校

〈通学の様子〉

本校に在籍する児童の多くは、中央バス「福87有明線」「大87有明線」を利用し、校区外から通学しています。地下鉄福住駅、大谷地駅からそれぞれ発車し、真栄団地を經由し約30分後、有明小学校前停留所に着くこのバスが、登校時における公共の交通機関です。地下鉄「東豊線」「東西線」から、バスに乗り継いで登校する児童もいます。正面に恵庭岳を望む車窓からの景色は大変美しく、左右の丘陵の樹林は、四季それぞれに美しく変化する色彩を見せています。

下校時は、児童の安全確保のために、職員が児童をバス停まで引率します。また車内では、バスリーダーの児童が中心となり、乗車中のマナーに気を配っています。下校バスは、「福住駅行き」が1時間ごとに走っている一方、「大谷地駅行き」は1日1便となっています。

1 恵まれた自然と教育環境

明治44年、特別教授場として創立以来、地域の開発とともに歩んできた本校の自然環境は、左右の丘陵によって両側から抱えられている緑豊かな地になっています。学校の裏には、空沼岳を源とした厚別川の清流が流れ、付近の畑をうるおしているばかりでなく、地域の人々の安らぎの場となっています。本校の子どもたちにとって、川遊びなどができる絶好の体験活動の場となっています。また、周囲の野山には、野草や樹林が豊かに繁茂していて、多くの昆虫や野鳥が生息し、まさに生きた教材の宝庫となっています。



この恵まれた自然環境の中に、設備の整った校舎と広大な校地に、ログハウス・炊事場・野外ステージ・野外広場をはじめ、学校農園などの充実した野外教育活動施設があり、本校では、こうした施設を豊かな体験を通して得られる「心身を鍛える場」「遊びや憩いの場」「学びの場」として、学校生活の中に位置付け、その活動を積極的に進めています。

2 特色ある教育活動の様子

(1) 自然を活用した活動

自然に親しみ、自然の中で生活し体を鍛えることによって、心豊かで強くたくましく育ててほしいという願いから、自然に挑戦したり、親しんだりできる活動を盛んに行っています。夏期間は、校地横を流れる厚別川での「川遊び体験活動」や裏山を駆け抜ける「クロスカントリー走」に加え、学校の裏山で実施する「裏山探検」は、異学年でテントづくりを行います。そして、冬期間も「歩くスキー」や「樹間スキーツアー」など、全校児童が野山や林間を駆けめぐります。どれも子どもたちの心に残る学校行事となっています。



(2) 飼育栽培・生産活動

学校農園を中心とした野菜の栽培、トドマツ林の中でのシイタケ栽培、野鳥への給餌などを通じて生命の尊さを知り、勤労の大切さと生産の喜びを体得していくことを目的とした活動にも積極的に取り組んでいます。

学校農園での野菜づくり（アカゲラタイム）



トマト・ジャガイモ・トウキビ・大根・キュウリ・スイカ・イチゴなど、学年ごとに、5月から栽培活動が開始されます。

朝の飼育栽培の時間には、地域の方から助言をいただきながら作物の成長の様子を観察したり、全校児童で世話をしたりしています。収穫期になると、とれたての野菜や果物を畑でおいしく食べたり、仲良く分け合い、家庭に持ち帰ったりする様子が見られます。また、「全校お泊まり会」の夕食の食材にもなるため、子どもたちは張り切って栽培活動に取り組んでいます。

(3) 伝統ある全校器楽活動（ハーモニータイム）

校舎いっばいに響きわたる全校器楽は8時35分から9時5分までの30分間で行われ、全職員で指導にあたっています。卒業するまでの6年間、新しい曲に挑戦しながら自信を深め、一人一人の可能性を伸ばすとともに、豊かな情操を培う場としています。また、Kitaraの大ホールで実施されるスクールバンド演奏会には、全校児童で参加しています。1年生から6年生まで全員が協力し合って奏でる「有明サウンド」は、迫力満点です。



(4) たてわり活動（全校給食・たてわり清掃・スポーツフェスティバルなど）

給食時間は、1年生から6年生までが「オアシス」（ランチルーム）に集い、「たてわりグループ」ごとに、みんなで楽しく語り合いながら食事をします。教職員も、子どもたちの中に入って給食をともにしながら、楽しい会話に参加し、全校児童とのふれあいを深めています。また、給食後の清掃活動も「たてわりグループ」で行っています。たてのつながりを生かした給食・清掃活動は、集団のルールを身に付けたり、他者意識を育てたりする大切な学びの場となっています。

スポーツフェスティバルは、たてわりや学年の仲間と協力しながら最後まで取り組むことを大切にした行事です。個人競技に加え、たてわり対抗団体競技・たてわり対抗リレー、そして、「Ariakeソーラン」にも全校で継続して取り組んでいます。





駒岡小学校

〈通学のようす〉

本校は、地下鉄真駒内駅から南に5kmに位置しています。通学するには、地下鉄真駒内駅発・中央バス「南92駒岡線」を利用します。

真駒内駅を出発すると、真駒内南町を経て桜山を左右に眺めながら、四季折々の変化を感じさせてくれる真駒内のなだらかな丘陵地帯を通過します。緑のトンネルを抜けると、保養センター駒岡と紅白の横縞が入った清掃工場の煙突が見えてきます。それから10分程で「駒岡小学校前」に到着します。

1 自然環境

昭和24年「豊平町立駒岡小学校」として開校して以来、地域の人々に支えられながら発展してきた本校は、駒岡の名前の由来どおり、真駒内から西岡へと続くなだらかな丘陵地帯にあります。

学校は、約1ヘクタールの学校林と精進川に囲まれ、1年を通して、豊かな自然とのふれあいがあります。

学校林には、学校の鳥「アカゲラ」をはじめとした様々な野鳥、リスなどの小動物、ミヤマクワガタなどの昆虫も多く見られます。

また、精進川はヤマメなどの魚や多くの水中生物が生息しています。気温が高い夏の休み時間には、子どもたちが川に入り、冷たい水の気持ちよさに満面の笑みが見られます。

2 本校の特色ある教育

〈自然・人・未来をつなげる学び〉

(1) 子どもと自然をつなげる学び

本校の子どもは、校舎後ろに広がる学校林と眼前を流れる精進川を活用した自然体験学習を通して、自然の偉大さ・生命の尊さを学んでいきます。



五感を十分に働かせながら行う活動には、時には見たことのない昆虫を発見したり、珍しい色の野草と出会ったり、鳥のさえずりに目線があがり急に風の音が耳に入ったり、小さな魚を手ですくってみたり、岩をひっくり返すと水生生物が動いたり…。

子どもが様々な自然と親しむ中で生まれた気付きや発見が、「なぜだろう」「やってみたい」という課題を生み出し、生きた学びへと変わっていきます。教室と学校林、そして精進川へと何度も行き来を繰り返し、豊かに学んでいきます。

また、体力向上を目指し、学校林走を行っています。暑い夏でも森の中には爽やかな風が流れ、どの子も自分のペースを守りながらとても気持ちよく走っています。6年間積み上げた持久力は、目を見張るものがあります。

(2) 子どもと人をつなげる学び

小規模であるからこそ、子ども同士が認め合い助け合う団結力を高め、充実した学校生活につながる伝統的な活動があります。

その一つに、全学年数人ずつが一つの班を組む「みずなら班」の活動があります。とくにサマーフェスティバルでは、6年生が中心となりキャンプファイヤー等を行い、みんなで校内に宿泊をし、友情・絆を確かめ合います。

また、地域や保護者の方にも様々な学習活動にご協力いただいています。子どもにとっては、先生とは違う大人との会話を通し、節度や礼儀といった社会性を身に付ける場にもなります。

代表的な活動として、グラウンドで陶芸作品を焼き上げる「野焼き」、地域の歴史を探る「駒岡学」があります。



(3) 子どもと未来をつなげる学び

本校では、子どもが自ら進んで学び、課題の解決を積み重ねて、未来を切り拓く力を育むことを願っています。そこで、学習中の課題解決への過程を大切にするために、少人数学級をさらに分けた少人数指導を計画的に行っています。

また、自ら学習活動をプログラムしていく力を身に付けさせたいと考え、例えば、修学旅行や宿泊学習では、目的地までの移動、活動スケジュール等、自分たちで計画し実施しています。帰校後はどの子も大きな達成感を味わい、その成果が明確に現われます。

自然にやさしく、人をたいせつに、自分の未来を創る。こうした豊かな人間性を育む駒岡小学校です。





義務教育学校福移学園

市内初の「義務教育学校」として令和5年度開校しました。福移小、福移中併置校として進めてきた小中一貫した教育の歴史を引継ぎ、新しい学校としてスタートしました。

〈通学の様子〉

児童生徒のほとんどが公共交通機関を利用して通学しています。

篠路・拓北・あいの里方面から…「あいの里教育大駅」から中央バス（東69番）
乗車10分「福移小学校通」下車

中沼・札苗・東苗穂方面から…「環状通東駅」から中央バス（東69番）
乗車35分「福移小学校通」下車

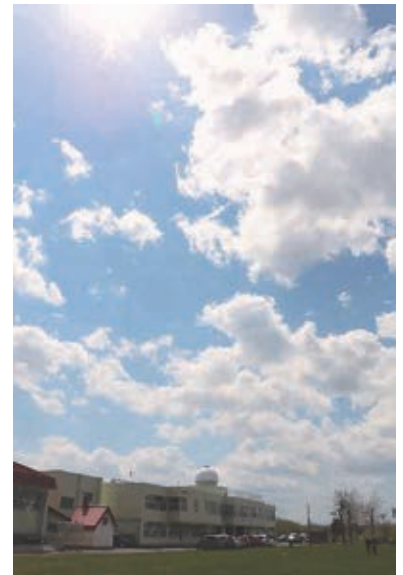
1 学校のまわりのようす

本校は札幌市の北北東、豊平川と石狩川の合流する堤防に沿った平坦な地域に位置し、周辺には畑や牧草が広がっています。数多くの野鳥が飛来し、校舎周辺からの鳥のさえずりを常に聞くことができるなど、豊かな自然に恵まれています。冬には吹雪に見舞われることもありますが、晴れた日には美しい雪景色につつまれ、特に日の出、日の入りは絶景です。

2 福移学園の特色ある教育

本校では、特認制度の趣旨と目的を踏まえ、義務教育学校として年間の教育計画を作成しています。

- 札幌市内で初の義務教育学校です。1年生から9年生が一緒の校舎で生活をします。
- 3年生からは外国語活動や音楽科等、6年生からは全教科において、教科担任制による学習を行います。
- 体力づくりとして、「福移きたえーる週間(マラソンの取組)」「なわとび大会」「歩くスキー」などを通じて、児童生徒の心身の発達を目指しています。
- 「あいさつ・あんぜん・あとしまつ」を合言葉に生活をしています。
- 天文台があり、星の観察ができる札幌で唯一の学校です。
- 自然の豊かさ、四季の移り変わりを感じながら学ぶことができる学校です。



3 義務教育学校の特質や自然環境を生かして

本校は義務教育学校として、9年間を見通した教育活動を行います。入学式、運動会、ステージ発表会、卒業式などの全校で行う行事があります。特に、校地内の約700平方メートルの畑を使っての栽培学習『レインボータイム』では、1年生から9年生が縦割りの「レインボーグループ」で一緒に活動します。リーダーを中心に、計画から畑づくり・作物の管理・収穫を進めています。まとめの収穫祭では、自分たちが育てた作物を料理し、全校児童生徒、教職員、地域の方が体育館に一同に会して楽しい昼食会が行われます。

また、課程ごとの活動として、前期課程（1～6年）では「たてわり祭り」「なわとび大会」を行います。後期課程（7～9年）は「ポロカル発信会（各自のテーマに沿った研究発表や職業体験）」や「部活動（バドミントン部・卓球部・美術部）」などがあります。

全学年が一緒に活動する場面が多く、9年間のゆったりとしたふれあいの中で、のびのびとした子どもたちが育っています。異なる学年の子どもたちが互いにやさしく関わり合う、ほほえましい姿が日常生活の中で見られます。



コラボ授業（生・家）



コラボ授業（図・美）



中体連壮行会



なわとび大会



スキー学習



ポロカル発信会



収穫祭



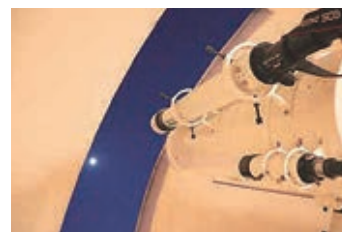
修学旅行

4 天文台のある学校

平成20年夏、旧西岡天文台に設置されていた350ミリ反射望遠鏡が移設されました。他にも80ミリ、60ミリの屈折望遠鏡、双眼鏡を常備し、理科の学習に活用しています。また、年4回程度の「天体観望会」では、地域の方々も参加され、天体観測を楽しんでいます。

5 PTA と協力して

PTA 活動や保護者のご協力で「絵本まじっく（絵本の読み聞かせ）」など子どもと保護者が一緒に活動する場面が多くあります。また、朝の交通安全指導や花壇整備など、PTA や地域の皆様のご協力のもと教育活動を進めています。



昭和40年代後半、盤溪小学校の児童が徐々に減少し、やがて2つの学年が1つの教室で学習する複式学級での授業の維持も困難となり、ついには廃校になるのではないかと危惧されてきました。

また、一方では、豊かな自然と少人数による人間的なふれあいが期待できる、この恵まれた環境を廃校によってなくしてしまいたくないという声も強くありました。

このような背景のもとで、市の辺縁部に位置し過疎化の進む学校を生かすため、昭和52年4月に「恵まれた自然環境と少人数での特色ある教育」の趣旨に賛同する方々を、一定の要件のもとに、校区外から募る「小規模特認校」が誕生しました。

当初、盤溪・有明・駒岡の3つの小学校でスタートしましたが、昭和60年度から福移小・中学校が加わり、令和5年度には福移小・中学校が義務教育学校福移学園へ改編されたため、小学校3校・義務教育学校1校となりました。

このしおりでは、小規模特認校制度、入学までの手続き、各学校の特色などを紹介します。



令和5年7月発行

編集／札幌市教育委員会学びの支援担当課

札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル3F

電話(011)211-3851



さっぽろ市
01-S02-23-1368
R5-1-106